

地域医療連携だより

やまびこ

発行日：平成 29 年 1 月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課



謹賀新年



- 新年のごあいさつ
- 岐阜県がん地域連携パスのご案内
- 外国人患者の診療状況と対応

本年もよろしくお願ひ申し上げます

高山赤十字病院院長
棚橋 忍

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

当院が地域医療支援病院に指定されて5年が過ぎました。病院、医院、診療所の先生方、福祉、行政の皆様方のご支援により地域に根付いた活動が展開できてきたように感じております。昨年は日本医療機能評価機構の認定を頂きました。また、第32回岐阜県病院協会医学会を開催することができました。

高山赤十字病院は本年には赤十字病院として95周年を迎えます。長きにわたり病院としての機能を果たしてこられたのも、地域の開業医・診療所の先生方のご協力と行政をはじめ地域の皆様のご支援のお陰と感謝申し上げます。当院は岐阜県北部の医療の最後の砦として、日々の診療、保健活動、災害・救護医療をこれからも継続して行い、5年後2022年の100周年を迎えたいと考えています。

一昨年10月より地域包括ケア病棟を48床にて開設しました。この病棟は急性期を脱した患者さんが、退院に向けてもう少しの療養を受ける病棟になると思います。当院は今まで回復期リハビリ病棟がありますので、今後患者さんは急性期を脱した時点で退院できない場合で、更に療養が必要である場合は原則回復期リハビリ病棟、地域包ケア病棟に変わって頂く事になります。もちろん今まで以上に入院時からの丁寧な説明が必要と考えています。今後、亜急性期・回復期病床をうまく組み合わせ、急性期医療からスムーズな退院、在宅での生活に入れるようにと願っています。

当院は現在地域の中核病院として、急性期・高度医療を中心に活動していますが、飛騨地域の最後の砦 (Last Hope!) として、飛騨高山を守る医療を実践して参ります。地域の医療機関、行政に皆様には今後ともご助言、ご支援をお願い致します。

今年も宜しく お願い申し上げます

医療社会事業部長
浮田 雅人

謹賀新年。今年も宜しくお願い申し上げます。

昨年末に閣議決定された国の平成29年度一般会計予算案は総額97兆円ですが、国債収入が34兆円、社会保障関連費が32兆円となっています。トランプ新大統領の就任に象徴されるように世界情勢は予測困難で、経済が好転し国の税収が伸びるのか、延期した消費増税に踏み切れるのか、誰にも判りません。

社会保障関連費は大きな財政負担ですが、医療、介護、福祉は国民生活に直結する重要事項です。この地域においても高度な医療が求められる一方で、かかりつけ医や在宅医療が注目されています。地域の先生方と病院との連携をさらに深める必要があります。

前号でお知らせしましたが、いよいよ2月1日に地域医療連携ITシステムが稼働します。ぎふ清流ネットを介して、当院の画像、検査結果、処方、退院サマリーなどの診療情報を、患者さんの同意のもと地域の先生方が閲覧して頂けるようになります。多くの先生方にご活用頂き、この地域の医療の充実、安全、安心な医療にお役立て頂ければ幸いです。

本年も当院は地域連携の推進に努めて参ります。ご意見、ご支援をお願い申し上げます。

岐阜県がん地域連携パスのご案内

当院は平成17年1月に「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。がん診療連携拠点病院では、がん医療の均てん化、地域のがん診療の連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援及び情報提供等を行うこととしています。

その一つ、「がん医療の均てん化を図る」こととして、がん地域連携パスを運用しています。

がん地域連携パスとは

がん診療連携拠点病院で入院治療を行い、退院後、概ね5年、もしくは10年間の診療計画や日常生活の注意事項等を記載した「診療計画表」を言います。

岐阜県内では、平成24年3月14日の岐阜県がん診療連携拠点病院協議会において、県内統一様式が了承され、同年10月より運用されています。

がん地域連携パスの活用により、地域の医療機関の皆様（以下、「連携医療機関」）に通院する際、診療内容を共有・役割分担しながら同じ治療方針で診療を進めることができ、患者さんにとっては、治療計画の視認化により、治療予定や内容が確認でき、安心感が得られます。

対象疾患は

「胃がん」「大腸がん」「肝臓がん」「肺がん」「乳がん」「前立腺がん」の6つのがん地域連携パスを運用しています。

診療報酬は

がん地域連携パスを運用することで、連携医療機関は、
『がん治療連携指導料(B005-6-2)300点(月1回に限り)』が算定できます。

算定にあたっては、連携するがん診療拠点病院へ「文書による情報提供」が必要です。

※ 情報提供の様式は任意とされており、診療情報提供書での作成も可能ですが、岐阜県がん診療連携拠点病院協議会では、統一の情報提供書の様式を作成しています(強制ではありません。)

※ がんに対する診療情報提供料は当該指導料に含まれますが、それ以外の疾患の診療情報提供料は別に算定できます。

※ 地域連携パスに従った定期受診月以外に、症状の変化により、情報提供を行った場合には、診療情報提供料は算定できます。

がん連携パスでは、連携医療機関による腫瘍マーカーの実施をお願いしていますが、検査料ではなく、悪性腫瘍特異物質治療管理料(220~400点)を算定することになります。

手続きは

がん治療連携指導料の算定には、東海北陸厚生局への届出が必要です。

届出に際しましては、所定の様式に連携医療機関が必要事項をご記入の上、がん診療連携拠点病院である当院からの届出となります。



ホームページ検索ワード

[メニュー](#) >> [医療従事者の方](#) >> [岐阜県地域連携パスに関する資料](#)

■ **お問合せ窓口** ■

医療社会事業部 地域連携課 **がん地域連携パス担当**
TEL : 0577-35-1880

急増する外国人患者の診療状況と対応

20年以上前、「インバウンド」という言葉を知るひとは少なく、外国人観光客をターゲットとするサービス業も稀な存在であった時代に、外国人観光客の増加に向けいち早く動き出した自治体が高山市と伺っています。それから成果が実り、今やその姿を見かけない日はないほど多くの外国人が来飛しています。また当院も例外ではなく、増加の一途をたどる外国人観光客に比例して外国人患者も年々増えてきました。平成25年度22ヶ国106人、平成26年度27ヶ国178人、平成27年度37ヶ国279人と国籍も多様化しています。今年度は11月迄の8ヵ月で既に34ヶ国259人に達しています。

当院では平成26年12月、急増する外国人患者に対応するためプロジェクトチームを立ち上げ、英語表記の案内板の設置、診療報酬の見直し、問診表・処方箋などの英語版作成など環境整備を進めてきました。

ソフト面では、高山市との連携強化として各部署・役割に特化した英会話勉強会の開催を定期的に行っており、友好都市である中国雲南省の麗江市から研修生として医師を受け入れています。今や、連日外国人患者の来院があり、その経験値に伴って対応するスタッフのスキルも随分向上してきました。



当地の外国人患者の特徴は、そのほとんどが「旅行者」であり国籍も実に様々であることです。月別では、高山祭の開催される4月は群を抜いて患者数が多く、平成28年4月は単月で過去最高の80人の外国人患者が当院を受診されました。一方、2月は雪に慣れていない地域からの旅行者の転倒による骨折等、整形外科の受診が目立ちます。

年代別では、30代~70代まで大きな差はなく、若干女性患者が多い傾向です。また、旅行中のため経過観察が難しく、次の目的地での処置や自国の医師に宛てた診療情報が必要となるケースが多くあります。なお、幸いなことに外国人患者でしばしば問題となる医療費が未収となるケースはほとんどありません。HIDAブランドが外国人富裕層を惹き付けるのでしょうか。

最後になりましたが、当院の休診日や受付時間外に来院する外国人患者の対応では、開業医の先生方に受診相談をさせていただき、また日ごろより快くお受けいただき心より感謝申し上げます。

外国人患者よりよく耳にすることは、「この地域は人が一番いい」という言葉です。どのような場面でも親身であり、可視化された観光資源以上に人がすばらしいとおっしゃいます。

異国で病院を訪れることは決して幸運な経験ではありませんが、総じて悲慘な思い出のまま帰国されることは稀なのではないかと思えます。これからも国際都市「飛騨高山」の名にふさわしい医療を目指して、当院一丸となって頑張っていきたいと思います。

引き続き開業医のみなさまには変わらぬご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。また、ご意見ご感想どございましたらお気軽にご連絡いただければ幸いです。

患者さん・ご家族の方へ

高山赤十字病院
【セット運営会社】
株式会社 トーカイ

入院セット・紙オムツセット導入のご案内

病衣類・タオル類・日用品類・紙オムツ類
の日額定額制レンタルについて

当院では

- ・患者さん・ご家族の方による洗濯のお手間の軽減
- ・日用品類・紙オムツ類の購入や補充などのご負担軽減
- ・院内感染予防対策の更なる推進 を目的として、

入院セット

病衣・タオル
日用品セット

紙オムツセット

お身体にあわせた
オムツセット

上記の日額定額制レンタルプランを

平成29年2月1日より導入します。

今後も、更なるサービスの向上を目指して参りますのでご理解をどうぞよろしくお願いいたします。

第6回 地域連携講演会・意見交換会

日時 平成29年2月18日(土)
講演会：午後4時
意見交換会：午後5時15分
場所 ひだホテルプラザ

退任医師

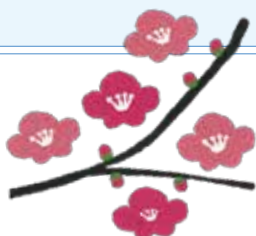
耳鼻咽喉科 村上 一 晃
平成29年1月末日付

編集後記

早いもので本年がはじまり、すでに1カ月が経過しようとしています。開業医のみなさまには、日ごろより地域連携の強化にご協力いただき誠にありがとうございます。

家で過ごす年末年始、TVの向こう側から聞こえてくるニュースは決して遠い話ではないと感じました。当院では、外国人患者の急増や施設関係者との連携が増えるなど、時代を映し出す出来事が目立ちます。世の中は激動の年になる予感ですが、みなさまと共に良き1年を過ごすことができますよう心よりお祈りしています。本年も何卒宜しくお祈り申し上げます。

地域連携課 平野 法子



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL : 0577-35-1880 FAX : 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ <http://www.takayama.jrc.or.jp/>